

平成 29 年度 第 1 回 九州森林管理局保護林管理委員会の概要

- 1 日時 平成 29 年 5 月 29 日（月）13:30～16:00
- 2 場所 九州森林管理局 2 階大会議室
- 3 議事（1）平成 29 年度の検討内容及びスケジュール（案）について
（2）やんばる森林生態系保護地域（仮称）の設定（案）について
（3）その他



4 概要

- 平成 29 年度の検討内容及びスケジュール(案)について、事務局から説明を行い了承された。
また、やんばる森林生態系保護地域（仮称）の設定（案）について、今後の主な検討課題を確認した。
- 主な意見について
 - 平成 21 年 3 月に報告書が提出された際の座長談話で宿題とされた以下の 3 点
 - ①コアエリア（保存地区）がむき出しの部分を解消する必要がある。
 - ②緑の回廊の設定などで 3 つに孤立している箇所連続性を担保する必要がある。
 - ③自然の推移に委ねるのではなく、積極的に保護する必要がある。について、検討すべきである。
 - 平成 21 年 3 月の報告書の時点からやんばるを取り巻く状況が変わっていることを考慮して検討すべきである。

- 返還された国有林のうち保護林以外の国有林について、林業など地域のニーズに配慮した取扱いも併せて検討すべき。
- 未返還の米軍訓練場についても生態系を保全するため配慮してもらうよう要望すべきではないか。
- 世界自然遺産推薦を考慮した場合、海から山まで一体的に保全することが重要である。
- エコツアー等の利用者の動向についても調査が必要である。
- マングースの駆除が進みヤンバルクイナ等希少種の個体数が回復しているとされるが、一方で最近、ノイヌ（野犬）が増加し、ヤンバルクイナ等の被害が増加しているとの報告がある（一部地域）。

○ 資料一覧

【議事次第・出席者名簿】

【資料 1】平成 29 年度の検討内容及びスケジュール（案）

【資料 2】「沖縄北部国有林の今後の取り扱いについて」概要版

【資料 3】「沖縄北部国有林の今後の取り扱いについて」（平成 21 年 3 月）以降の主な状況変化について

【資料 4】やんばる森林生態系保護地域（仮称）の設定（案）

【資料 5】やんばる森林生態系保護地域（仮称）の設定（案）及び設定後の管理方針等について有識者へのヒアリング（案）

【資料 6】現地検討会の視察ルート（案）

【参考資料 1】九州森林管理局保護林管理委員会運営要領

【参考資料 2】保護林設定管理要領

【参考資料 3】沖縄北部国有林の今後の取り扱いについて

【参考資料 4】平成 28 年度沖縄北部国有林森林環境調査業務調査報告書

※【資料 2】から【資料 6】及び、【参考資料 3】、【参考資料 4】については、希少種情報が含まれるため非公開

平成29年度 第1回九州森林管理局保護林管理委員会出席者名簿

	氏 名	所 属 ・ 役 職	
委 員	伊澤 雅子	琉球大学 理学部 海洋自然科学科 教授	
	河野 耕三	綾町役場 エコパーク推進室 照葉樹林文化推進専門監	
	木口 実	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所長	
	佐藤 英章	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研 究所 林木育種センター 九州育種場長	
	佐藤 和歌子	特定非営利活動法人 森林をつくろう 理事長	
	中尾 忠規	熊本県 環境生活部 環境局 自然保護課長	
	浜本 奈鼓	特定非営利活動法人 くすの木自然館 代表理事	
	藤掛 一郎	宮崎大学 農学部 教授	
	横山 隆一	公益財団法人 日本自然保護協会 参事	
	米田 健	鹿児島大学 名誉教授	
	篠原 武夫	琉球大学 名誉教授 (オブザーバー)	

(委員50音順、敬称略)